

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

(第五部 聖地巡礼)

52

第十七幕 第一場

オリーブ山山頂 1523年9月22日

登場人物：巡礼者 イニゴ

トルコ人番人 1

トルコ人番人 2

フランシスコ会シオン山修道院 院長

同 副院長

同 修道士

修道院で働いている（制服の）帯を締めたキリスト者（Girdle）

【語り】 フランシスコ会の管区長を通して示された神のみ旨が、「聖地に留まるべきではない」ということであることが分かった今、帰国を明日に控えたイニゴは キリストゆかりの場所をもう一度訪れたいとの強い望みにかられました。トルコ人の案内人なしに歩き回るのが極めて危険であることは承知しているものの、イニゴは全く意に介さず、そっと皆から離れてオリーブ山へ向かいました。案の定、オリーブ山の中腹で、トルコ人の番人に見つかってしまいました。

トルコ人番人 1: オイお前、どこに行くんだ？

案内人なしに勝手に歩いてはいけないことを知らんのか？

イニゴ: (身振りを交えて) 私知ってます。私明日帰る。キリストの昇天の石

(1)、是非見たい。今日しかない。

トルコ人番人 2: ダメだダメだ、我々に逆らっても無駄だぞ。さっさと宿舎に

帰れ。無理矢理通ろうとして、殺されたヨーロッパ人もいるんだぞ。

イニゴ: 今日しかない。後生だから通してください。イエス様の昇天の石見ら

れたらいのちも惜しくない。なにも惜しくない。そうだ、このペンナイ

フを上げるから、お願い！

トルコ人番人 1: しょうがないな～。

じゃあ、急いで見て、すぐ宿舎に帰るんだぞ。

イニゴ: グラシマス。直ぐ帰る！

【語り】イニゴは小走りに坂道を上り、イエスが昇天した石に走り寄り、傍らに
跪いて、深い信心をこめてしばらく祈りました。心をこめてその石に接
吻した後立ち上がり・・・・・・・・

イニゴ: デオ・グラチマス。デオ・グラチマス。もう思い残すことはない……

とはいえ、見納めにベトファゲにも行っておきたいな。

(ベトファゲに着いて間もなく)

ああっ！しまった。ご昇天の石の足跡は、右足はどの方向を向いてい
たかな？左足は？ イエス様がどの方向を向いて昇天なさったかをど
うしても知りたいものだ。もう一度オリーブ山に確かめに行こう。

トルコ人番人 1: さっき直ぐ帰るといったのに、また来たのか？

イニゴ： すみません。もう一度だけ、、、このとおり！この鉄、上げますから。

トルコ人番人 1： これ以上長居すると本当に危ない目に合うぜ。

イニゴ： すみません。キリストさま、私のいのち。敬愛する主のこと、どんなことでも心に焼き付けておきたいです。

第二場

同日 フランシスコ会シオン山修道院

修道士： 院長様、大変です。巡礼者の一人がいなくなったようで、今知らせがありました。

院長： 一人だけで出かけた？ 誰です、そんな無謀なことをするのは？

修道士： いつか院長様に会いに来た人のようです。

院長： やっぱりあの人ですか！あの人への神に対する信頼は素晴らしいが、人間の常識に欠けるところがありますね！ 神様が味方だと信じているので、どんなことにもおじることがない。あの人のことだから心配ないでしょうが、万一のことがあって、明日出発出来なくなったらどうするつもりなんだろう？

修道士： 先ほどから、修道士たちやうちの Girdles（帯を締めたクリスチャンたち）が懸命に探しています。羊門を出てゲッセマニの園の方へ行くのを見たという人がいるそうです。

院長： ロードス島陥落以来とみに緊張が高まっている時だというのに……。彼の上に何事もないことを祈りましょう。

（それから約半時が経ったころ。）

副院長： 院長様。あの巡礼者が帰ってきました。

院長： おお、無事戻りましたか？良かった、よかった。一体どこに行っていたのでしょうか？

副院長： 間もなくここに来ます。捜索に行った人たちが寄ってたかって彼を叱ったり、怒鳴りつけたりしています。

院長： それは気の毒に。早くここに連れてきてください。

副院長： 承知しました。

（暫らくして、副院長、修道士、そして Girdle（帯を締めた信徒）に片腕をきつく抱えられたイニゴが院長室に入ってくる）

院長： お帰りなさい。無事で何よりでした。

皆が心配して探していたのですよ。一体どこに行っていたのです？

イニゴ： ご心配をかけましたことをお詫びします。エルサレムにいられるのも今日限りと思うと、居ても立っても居られない気持ちになり、イエス様
がご昇天になったオリーブ山に行って、イエス様の足跡の残っている
石に別れを告げたくなりました。

修道院長： イエス様をお愛しするあまり、どんな危険も制止も眼中になくなってしまふのですね？でもトルコ人の番兵がいて、通してくれなかつたでしょう。

イニゴ： 番人に会いました。一生懸命頼んだら通してくれました。皆いい人です。

修道院長： あなたには不思議な説得力がありますね。普通は、そうたやすく通してはくれませんよ。

イニゴ： 許してくれないのは この帯の人（Girdle）です。私を捕まえたときから今まで、私の手を締め上げて少しも緩めてくれません。

修道院長： あなたをやっとのことで見つけたので、もう決して放すまいと思い、手に力が入ってしまったのでしょう。マルチェロス、ご苦労様でした。もう大丈夫です。手を放してやりなさい。

（マルチェロスは邪険にイニゴの腕を突き放し、押し黙ったまま出口

で一礼し、帰って行く。)

イニゴ： (腕をさすりながら) 有難うございました。肘のところが紫色になりました。でも、彼は任務に忠実だったのです。私を決して逃がさぬよう努めたのですから。

修道院長： 巡礼のお仲間が心配しながら待っていますよ。

早く無事な姿を見せてあげなさい。

イニゴ： そうします。今月初めからエルサレム滞在中、大変皆様にお世話になり、またご心配をかけました。心から感謝いたします。

修道院長： エルサレムに永住したいというあなたのお望みに添えないのは残念ですが、事情を分かってくださり有難う。明日からの無事なご帰還を祈ります。

イニゴ： Muchas gracias. Adios.

註 1：キリストが昇天した時、その石を踏み石として天に昇って行ったと言い伝

えられているもので、石の上には、キリストの足跡が残されているという。

今もその石が残っており、その上にある二つの深くぼみがキリストの

足跡であるといわれている。